

●あおいパート

ちよつとお部屋に失礼しますよー。…あらあら、大変です。強そうなお侍さんがいらつしやいました

え？ 私ですか？ 私はくーのあいと申します。どうぞよろしくお願いします

はわわ！ 危ないですよ、お兄さん。いきなりそんな得物振り下ろして、私、斬り殺されちゃうかと思いました

確かに私はお兄さんから見れば曲者ですけど……まあまあ、こころは穏便にいきましょつよ。人間同士なんですから、ちゃんとお口を使って

んっ……ちゅ……ちゅうっ、ちゅっ、れる……くちゅ、ちゅ……んっ……ぷはあ。ね？

くすくす。お兄さん、顔真っ赤にして固まっちゃって、とっても可愛いです。

ああ、馬鹿にしてるなんてとんでもない！ 私、いい子と可愛い子が大好きなんです。それで  
 つい…お気に触ったのなら申し訳ありません

「企みですか？ ふふふー。流石、二二の警備を任されているお侍さんですね。鋭いです！」

実は私、男の人を癒すのは得意なんですけど、傷つけるのはあまり得意ではなくて……お兄さんは強そうだし、出来れば戦いたくないのです

だから、私がお兄さんを気持ち良くして差し上げる代わりに、その刀を下ろして貰えたらって  
思いまして

そんな……騙まし討ちなんてしませんよ。その証拠に、ほら

袖に入れていた手裏剣も…んっ、懷に入れていた煙玉も…それに、太股に括りつけていた七首  
(あいくち)も

危ない物は全部床に置いておきますから。ね？ 着物の内側、よく見てください。もつ危なくな  
うとこしょひ？

…はい、お兄さんに危害を加えるつもりは全くありません

お兄さんには何の損もない、ちょっとしたか弱い女性の命乞いでも思っていただければ

ん？ どうしたんですか、喉なんか鳴らされて。ああ、喉が乾いちやったんですね

そうですね、お勤めは大変ですもんね。特にお兄さんは、今までずっと気を張っていらしたのじゃないかな？

偉いですね……んちゅ、ちゅ……ん、ふ……ちゅっ、ちゅ……良ければどうぞ私の唾液で、喉を潤して下さい

はあ……んれる、れう、んじゅう、ちゅう……ふはっ、舌と舌を絡めて……

んんっ、わる、お□の中をとろとろにっっまじまじっっ……んむっ、くちゅ、ちゅ、ん……わる、ちゅ  
うっ……んはあ

ああ、潤い過ぎてお口から少し零れちゃいましたね。ちゅっ、んっ、んふ… 渴いた喉に私の唾液、美味しかったですか？







